

弛まぬ変革と創造の実践に向けて (JX日鉱日石エネルギーグループのCSR活動について)

JX日鉱日石エネルギー株式会社
取締役 常務執行役員

か が み かずお
加賀美 和夫



日頃から弊社製品をご愛顧いただき、まことに有難うございます。本年も引き続き「ENEOS Technical Review」をお届けしてまいりますので、ご参考にしていただければ幸いです。

「脱皮できない蛇は滅びる。」(ニーチェ)

新しい年を迎え、強く印象に残っている言葉です。

政治・経済・社会の万般にわたり混沌とした状況が続く中、去年は各国のトップ選択・トップ交代が、相次ぎました。本年は、新たな指導者・体制のもと、我が国を含め世界が新たな枠組み作りに向け、多面的な試行錯誤を本格的に始動させることが予想されます。

こうした時代の大きな変革期にあっては、冒頭の言葉のとおり、我々も、より主体的に、言い換えればしっかりした基本軸を持って、古い殻から脱皮し、新たな成長を期していく取り組みが必要不可欠となると思っております。

奇しくも弊社は、本年、統合直後から取り組んできた第一次中期経営計画を仕上げたうえで、その成果をベースに新たな飛躍に向けてチャレンジする第二次中期経営計画のスタートを切ります。第二次中期経営計画につきましては、現在鋭意、検討・取り纏めを進めておりますが、本紙面をお借りして、飛躍へのチャレンジに関連して、その判断を行う基本軸の根幹をなすCSR活動について、ご紹介いたします。

弊社は「CSR活動は事業活動そのものである」との基本認識に立って、JXグループで掲げた理念である「エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、持続可能な経済・社会の発展に貢献します。」の実現に向け、日々活動を展開しております。この取り組みのコンセプトは最近戦略的CSRとして取り上げられている「CSV (Creating Shared Value)」、即ち「経済的価値と社会的価値を同時実現する共通価値の戦略」でもあると考えています。

具体的には、

良き企業市民としての取り組みである、コンプライアンス、社会貢献、環境安全の3本柱の活動をベースに、

X(みらい)への約束として、

- ①「いかなる場合にもお客様にエネルギーを安定的にお届けする」
- ②「総合エネルギー企業としてエネルギーのX(みらい)を創造する」

を掲げ、関係会社も含めJX日鉱日石エネルギーグループ全体で、活動に取り組んでおります。

まず、ベースとなる3本柱の活動については、全社的な推進組織であるCSR推進会議のもとに、コンプライアンス、社会貢献及び環境安全の3つの委員会を設置し、グループとしての方針を審議・策定するとともに、グループ各社間で情報の共有化と意見交換を図りながら活動を進めております。なお、去年は遺憾ながら、製油所等でトラブルが多発するとともに、コンプライアンス違反も判明し、ステークホルダーの皆様にご迷惑、ご心配をおかけすることとなりました。安全、コンプライアンスは事業存立の大前提との認識のもと、従前の施策を再検証のうえ、役員以下全員で、再発防止に向けた取り組みを推進しています。

次にX(みらい)への約束についてであります。

今、エネルギーを取り巻く環境が大きく変化しています。中長期的な世界のエネルギー需要の増大を背景にした資源獲得競争の激化、シェールガス・オイル開発の進展、中東の政情不安による地政学的リスク、国内需要の構造的減少、原子力発電問題、そして、我が国のエネルギー基本政策の帰趨等々様々な要因が絡み合い、先行き不透明感が増しております。

しかしながら、如何なる事業環境下にあっても、弊社の社会的な使命はエネルギーの安定供給であることに変わりありません。加えて、一昨年発生した東日本大震災により、人命に直結する石油製品の安定供給の重要性が改めてクローズアップされ、今後は、より分散化し、多様化したエネルギー供給が求められることとなります。

当面の震災対応ということでは、改めて、「つくる」、「運ぶ」、「売る」のサプライチェーンについて、製油所、出荷設備、SS等それぞれのステージで対応力の強化施策を急ぎ展開しております。

一方、将来にわたる安定供給に向けたエネルギーの未来ということでは、我々は「ENEOS創エネ事業」に取り組んでおります。

創エネ事業のポイントは3つあります。

- ①エネルギーを効率よく、経済的に使い、資源を最大限に生かす「省エネ」
- ②再生可能エネルギーを生み出し、持続可能な社会の一翼を担う「再エネ」
- ③自然災害などにより社会インフラがダメージを受けてもエネルギーを自給自足できる「自立」

この3つをキーワードに、エネルギーのX(みらい)を見据えつつ、お客様そして社会のニーズを踏まえて、より多角的な、期待に応えられる取り組みに努めております。

取り組み事例を申し上げますと

- ①「省エネ」サプライチェーンにおける省エネはもとより、ご家庭での省エネでは、高い発電効率を実現する「エネファーム」の販売に加え、エネルギー診断サービス「Dr おうちのエネルギー」に取り組んでいます。ご家庭でのエネルギーの使い方を診断し、新エネルギー機器の導入や、住宅性能の改善、省エネ型電気製品への買い替えなどのご提案をしていきます。
- ②「再エネ」一般住宅向けはもちろん、集合住宅向けを含めた太陽光発電システム、さらにはメガソーラー事業等に取り組んでいます。
- ③「自立」送電網から独立して電気を自給自足できるシステム、具体的には、エネファーム、太陽光発電システム、蓄電池の3つを組み合わせたシステムです。スマートシティプロジェクトなどへの活用も含め実証実験を進めております。

このほか車社会のX(みらい)に向けては、次世代型サービスステーションとして、電気自動車(EV)に対する、太陽光発電導入によるチャージステーションのほか、燃料電池自動車(FCV)については、水素供給事業者を目指し、製造、輸送、貯蔵の各段階において、技術開発や実証実験に取り組んでいます。

また、技術基盤整備に向けては、以下の取り組みを進めております。

石油の高度化利用を目的に、HS-FCC装置による革新的重質油分解プロセスの技術確立と早期事業化、地球温暖化対応のバイオETBE配合のバイオガソリン販売、安定供給とエネルギー資源の多様化に向けたセルロース系バイオエタノールの生産技術開発や微細藻類を用いた燃料開発、化学品分野におけるENB(5-エチリデン-2-ノルボルネン)のような世界No.1シェアのグローバルニッチ製品のラインナップの充実、自動車エンジンオイル「SUSTINA(サスティナ)」に代表される潤滑油分野での高付加価値商品の開発等を進めております。

弊社が目指すのは、総合エネルギー企業、即ちお客様のニーズに応じた形で様々なエネルギーを供給する企業です。

具体的には、原油・天然ガス・石炭・太陽光等の一次エネルギーを、ガソリン・灯油・軽油・LPガスといった石油製品はもちろん、電気・都市ガス・熱などお客様が必要とする最終エネルギーの形に効率的に変換し、安定的に供給することができる企業、言わばエネルギー変換企業であり、それが私たちが目指す総合エネルギー企業であります。

このX(みらい)の実現に向けて、グループの総力を結集してまいりたいと考えております。

引き続き、皆様のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。